

令和3年度 小平第二みどり作業所 事業報告書

1 総括

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、利用者の活動を縮小せざるを得ず、利用者が楽しみにしている音楽教室や夕方の余暇支援などは、年間を通して中止とした。しかし、行事を毎月実施したほか、10月には1泊旅行に出かけることができ、多少は利用者のストレス軽減を図ることができたのではないかと感じている。多くの利用者が1年間安定して通所できたことにほっとしている。

また、就労支援事業においては、令和2年度と比べて増収したものの、コロナ禍以前の状況までには回復せず、材料費の高騰などもあり、利用者の工賃はほぼ横ばいの状況となった。

その他、令和2年度に引き続き、PDCAサイクルによる利用者支援の充実を重点課題として取り組んだが、数年に渡って職員の退職が続いており、利用者支援の充実については十分に行うことが出来なかった。

令和4年度も就労支援事業の強化及びPDCAサイクルの実施に引き続き取り組んでいくが、その為には職員の定着率向上による人材育成が必要となっている。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 46名 (令和4年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 11名 (令和4年3月31日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	3名	(常勤換算3.0)
生活支援員	5名	(常勤換算3.9)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援
 - ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
 - ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援

- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 受注作業（ボーロ入れ作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（年間通して中止）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施）
- ⑤ 夕方生活支援事業（緊急時のみ対応）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 紙芝居
- 6月 創作活動（貯金箱）
- 7月 散歩
- 8月 塗り絵
- 9月 ちぎり絵
- 10月 一泊旅行
- 11月 散歩
- 12月 忘年会（ビンゴ・ボーリング）
- 1月 成人を祝う会
- 2月 塗り絵
- 3月 防災訓練

6 日 課

開所・送迎・清掃	8:30～9:00
朝礼	9:15～9:30
作業	9:30～10:30
休憩	10:30～10:45
作業	10:45～11:45
片付け	11:45～12:00
昼休み	12:00～13:00
昼礼	13:00～13:15
作業	13:15～14:15
休憩	14:15～14:30
作業	14:30～15:30
終礼	15:30～15:50
送迎	15:50～16:30
清掃・記録等	16:30～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) P D C A サイクルの実施による利用者支援の充実。

- ①個別支援計画を丁寧に作成の上、計画に基づいた支援を行う。利用者の様子や支援経過を記録することで、評価、見直しを丁寧に行う。
- ②利用者一人ひとりにあった作業の実施及び作業技術や意識の向上。
- ③相談及び生活支援の充実。

※特に令和2年度に課題となった、作業以外の利用者支援についての充実を図る。

【成果と課題】

利用者と職員は良好な関係が築けており、日常の支援については丁寧に行うことができたが、総括に記載の通り、職員の定着率が低く、支援スキル等の積み上げが十分に行えなかった。個別支援計画の作成においても、長期目標、短期目標、支援上の重点との関連が不十分となった他、施設長の指導不足も重なり、計画に沿った支援の統一や、評価、見直し等のP D C A サイクルの実施が十分に行えなかった。また、ケース記録については、作業面の記載に偏りがちであったことが課題であったが、健康状態や心情面、相談内容等についても記録を残すことを意識し徐々に改善が図られている。

(2) 就労支援事業の充実

①クッキー事業

担当職員は3名とし、以下のことに取り組む。

目標製造個数

令和2年度の目標製造個数 年間26,000個 (実績29,459個)

令和3年度の目標製造個数 年間30,000個

目標売上

令和2年度の目標売上 年間4,550,000円 (実績 5,092,558円)

令和3年度の目標売上 年間5,200,000円

令和3年度の取り組み

- ・職員の更なる技術向上
- ・新商品の開発
- ・販路の拡大 (贈答品のキャンペーンの実施・委託販売・宣伝強化 等)

※新たな試みとして大手会社等への大口の営業を行う。

- ・毎月、製造計画の達成度の評価を行う。

【成果と課題】

年間を通して会社への定期販売による販路拡大ができたこと、また計画通り年間平均で3名の担当職員を配置することが出来たことにより、製造個数、売上とも目標を上回った。一方で、職員の退職による入れ替わりが多かったほか、1月にベテラン職員1名の退職があり、製造技術の向上は十分に行えていない。特にベテラン職員の退職は次年度以降の製造力に大きく影響すると予想しており、今後、担当職員の更なる技術の向上や、利用者への指導力の向上、作業の効率化を目指して取り組んでいく必要がある。

(令和3年度クッキーの製造個数及び売上実績)

	製造数	売上
年間目標	30,000個	5,200,000円
年間実績	31,509個	5,403,725円
達成率	103.7%	103.9%

(令和2年度との比較 - クッキーの製造個数及び売上実績)

	製造数	売上
2年度	29,459個	5,092,558円
3年度	31,509個	5,403,725円
差額	2,050個	311,167円

②パン事業

担当職員を3名とし、以下のことに取り組む。

目標製造個数

令和2年度の目標製造個数 年間28,000個（実績24,148個）

令和3年度の目標製造個数 年間30,000個

目標売上

令和2年度の目標売上 年間 3,500,000円（実績2,706,222円）

令和3年度の目標売上 年間 3,750,000円

令和3年度の取り組み

- ・職員の技術向上
- ・新商品の開発
- ・販路の拡大（店舗付近でのチラシ配布、法人内部での販売強化、委託販売先の増加、定期的な販売場所の増加、宣伝強化等）
- ・毎月、製造計画の達成度の評価を行う

【成果と課題】

年間を通して目標の職員3名体制を維持し、職員の製造技術は徐々に向上してきている。また、利用者についても、継続して作業に携わることで一人ひとりのモチベーションの向上に繋がり技術向上に結びついている。新商品の開発については、試作した12種類の内、10種類を商品化し、パンの種類は合計で67種類となった。このように技術の向上や商品の開発は実施できたが、商品の質の安定には至っておらず、製造技術は全体的にまだ課題がある。

また、市内福祉施設2か所に営業活動を行った結果、毎月の定期的販売先は増えたものの新型コロナウイルス感染防止のためイベント等による出張販売が中止になることが多く全体的には販売機会が減り、売上は目標には達しなかった。製造数においても、1日あたり20個程度の製造数増加の余力があったが、販売先減少により製造調整を行ったことで目標には達しなかった。製造能力に比べた販売先の不足が課題となっている。

令和2年度との比較でも製造数は減少したが、新商品の単価をあげたことにより、パン全体の平均単価が約17円増となり、売上は約40万円増額となった。

（令和3年度パンの製造個数及び売上実績）

	製造数	売上
年間目標	30,000個	3,750,000円
年間実績	23,938個	3,108,527円
達成率	79.7%	82.8%

（令和2年度との比較 - パンの製造個数及び売上実績）

	製造数	売上
2年度	24,148個	2,706,222円
3年度	23,938個	3,108,527円
差額	△210個	402,305円

③その他の作業を含めた収入

【成果と課題】

	目標作業収入（円）	令和3年度実績	差額
クッキー製造事業	520万円	540万円	20万円
パン製造事業収入	375万円	311万円	△64万円
清掃作業収入	160万円	165万円	5万円
受注作業収入	7万円	8万円	1万円
その他作業等	3万円	8万円	5万円
合計	1,065万円	1,032万円	△33万円

2) 人材育成

- (1) 職員の定着率の向上
- (2) PDCAサイクルのスキル向上
- (3) 新人職員の育成

【成果と課題】

- (1) 上半期に2名、下半期に1名の職員を採用したが、職員4名（勤続20年1名、勤続4年2名、勤続1か月1名）が退職し、定着率の向上には至らなかった。施設長を含め、職員間のコミュニケーションが不足し、チームワークの形成が不十分となった。
- (2) (1)－1)に記載。
- (3) 支援方法や利用者個々の特性等については、概ね利用者状況を把握しているが、事業所全体でのコミュニケーション不足もあり、自分の担当業務以外への関心が薄くなった。

3) 経営管理

- (1) 訓練等給付費の安定確保
《令和3年度目標（2名受入）》
1日平均利用者39人（48人在籍）
職員配置13名（常勤換算11.5名 管理者含む）

【成果と課題】

9月より新規利用者1名を受け入れ、利用者数は46名となった。新型コロナウイルスの感染拡大等による利用自粛が大きく影響し、1日平均利用者数は37.2名となり目標の39名には達しなかった。しかし、3年度の報酬改定の見直しにより、給付費収入が前年度比で増額となった他、事務費や事業費支出が前年度比で減額となったことが影響し、約400万円の黒字収支となった。

- (2) 月次試算による経営状態の把握
毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

【成果と課題】

月次試算表をもとに毎月の経営状態を把握し、支出についても計画的に予算が執行された。

- (3) コスト削減
節電節水節約に務めコストの削減を行う。

【成果と課題】

年度当初はコスト削減への意識が不足し、節電対策が不十分であったが、徐々に改善が図られている。

8 その他の成果と課題

- 1) 希望する職員及び利用者新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。

9 事故等報告

なし。

10 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
- (2) 開所時間 午前9時～午後4時
- (3) 年間延開所日数 241日間（前年度 242日間）
- (4) 平均活動時間 7時間

1.1 利用状況

1) 利用者延人員	8,964人	(前年度 8,848人)
2) 1日平均利用人員	37.2人	(前年度 36.6人)
3) 体験実習者延人員	55人	(前年度 18人)
4) 1日平均実習人員	0.23人	(前年度 0.07人)
5) 実習者実人員	10人	(前年度 2人)

1.2 利用者状況（令和4年3月31日現在）

1) 年齢

20歳未満	1名
20歳以上30歳未満	17名
30歳以上40歳未満	9名
40歳以上50歳未満	12名
50歳以上60歳未満	6名
60歳以上70歳未満	0名
70歳以上	1名

2) 障害の状況

愛の手帳	43名	(内身障手帳4名、精神保健手帳1名)
身体障害者手帳	5名	(内愛の手帳4名)
精神保健福祉手帳	2名	(内愛の手帳1名)
手帳不所持	1名	

3) 通所手段

送迎車利用	19名	(内1名家族送迎、4名交通機関、徒歩等2名)
交通機関利用	11名	(内4名送迎)
徒歩等	18名	(内2名送迎)
家族送迎	5名	(内1名送迎)

4) 居住状況

管内居住	35名	管外居住	11名
------	-----	------	-----

5) 性別

男性	29名	女性	17名
----	-----	----	-----

1.3 利用者工賃

平均工賃	月額	: 13,529円	(前年度 13,800円)
	日給	: 825円	(前年度 839円)
	時給	: 240円	(前年度 238円)

1.4 生活支援PG実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数	138日
(2) 週平均実施日数	2日

2) 利用者（令和4年3月31日現在）

(1) 利用者数	2人
(2) 利用者延人数	138人

3) 支援者（令和4年3月31日現在）

(1) 職員	2人
(2) アルバイト	3人
(3) 職員延人数	12人
(4) アルバイト延人数	138人

4) 内容

- (1) ウォーキング 138回
- (2) プール 0回

1.5 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実1名 延べ8名
- (2) 延実施回数：8回

【月別実施状況】

実施月	実施回数	延参加人数
4月	0回	0人
5月	0回	0人
6月	0回	0人
7月	0回	0人
8月	1回	1人
9月	1回	1人
10月	1回	1人
11月	0回	0人
12月	1回	1人
1月	2回	2人
2月	1回	1人
3月	1回	1人
合計	8回	8人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
ドライブ	8回	8人

1.6 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.7 防災

災害時避難訓練を年2回実施し、3月に小平手をつなぐ親の会と法人が共催で実施した防災訓練に参加した。